

学び舎通信 4月号

町内小中学校の情報を毎月お届けします



大小

自分の命は自分で守る

〜東日本大震災追悼式〜

3月11日の6時間目に、本校体育館で東日本大震災追悼式を行いました。追悼式では、渡邊修次様(元山元町立山下中学校校長)をお招きし、震災被害の甚大さや当時の生活の様子、生活防災・減災などをお話いただきました。最後に「『自分の命は自分で守る』を意識して生活してください。』と話されました。そして、午後2時46分に全員で黙とうし、震災で亡くなられた方々へ哀悼の意を表しました。



南小

6年生への感謝の気持ちを込めて

卒業を目前に控えた6年生への「感謝の会」を開きました。各学年が分担して廊下や階段、体育館に装飾をしたり、写真のように鉛筆立てのプレゼントを渡したりしました。また、全校で卒業式でも歌う「あゆみ」を合唱し、歌詞の通り「踏み出した一歩が輝く明日へ続く」ようにメッセージを送りました。「真剣な表情がうれしかった」と話していた6年生は、きつと夢を抱えて歩み出す「こころ」でしょう。



全小

6年生を送る会

3月1日に「6年生を送る会」を行いました。5年生が主体に準備をし、6年生に感謝を伝える会になりました。1年生〜5年生までの出し物では、それぞれの学年が工夫した歌、踊り、寸劇など、とても素晴らしい出し物が披露されました。今流行のCMをもじった寸劇などでは、6年生をはじめどの学年も大受けでした。最後に6年生から歌の披露と各学年に手作りの縫いぐるみ(ポプラ児童会のマスコット、ポプラッキー)などが贈られました。6年生が今まで後輩達のために行ってきた活動が引き継がれ、これからも児童会が盛り上げて行くことでしょう。

3年生を送る会

3月1日に、生徒会主催による3年生を送る会を実施しました。1・2年生の生徒会役員を中心に企画・運営される初めての会でもあります。3年生に感謝の気持ちを込めて、その願いが通じるように計画しました。記念品や3年間の思い出のイラストは生徒の手により制作したものです。先生方のドラマも華を添えました。



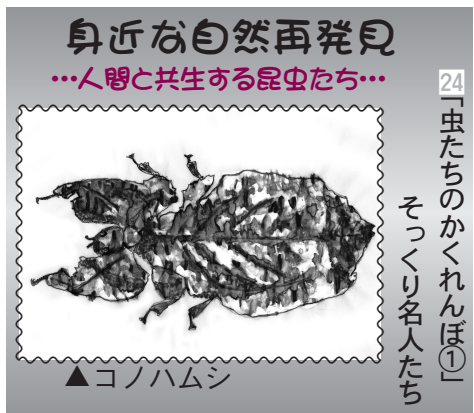
大中



全中

志高く歩んでいこう

3月12日大勢のご来賓の方々や保護者に見守られ、第69回卒業式が行われました。厳粛な空気の中、卒業生34名一人一人が校長先生から卒業証書を受け取りました。公民館での卒業式でしたが、送辞、答辞、卒業合唱と進むにつれ卒業生、保護者、そして在校生がきれいな涙で輝く、感動的な式となりました。金中を巣立っていく卒業生が、この日の感動を胸にそれぞれの持ち味を生かしながら、志を高く歩んでいくことを心から願っています。卒業おめでとう。



24 虫たちのかくれんぼ①
そっくり名人たち

「ほら、あなたの目の前に居ますよ。」「えっ、どこにいるんですか?」テレビの画面で指さされても見つけられなかったその虫は、木の葉に止まった「コノハムシ」でした。

葉っぱと一体化している「コノハムシ」は葉脈まで羽の模様にとり入れていたのには驚くばかりでした。今回は虫たちのかくれんぼの話です。皆さんも木の幹の模様にそっくりなガや河原の石ころにしか見えないようなバッタなどを見つけたことがあると思います。まわりにすっかり溶けこんで天敵の鳥などの鋭い目から隠れているのです。しかし、このかくれんぼは虫たちにとっては遊びではなく、生死を賭けた生き残り競争そのものです。このように、まわりの環境にそっくりな模様で身を守るやり方は隠蔽(カモフラージュ)といわれ、この時の体色や模様を保護色と呼ばれています。世界中でさまざまな自然環境のもとで多種多様な「かくれんぼ大作戦」が展開されてきました。3億年に及ぶ長い「かくれんぼ」の結果、「そっくり名人」たちがたくさん誕生したわけです。町内に長屋や広っぱが残っていた昭和までは路地裏で遊ぶ子どもたちにはかくれんぼが大人気でした。道具がなくても体ひとつで楽しめたからです。今ではゲーム機で室内遊びが大流行のようです。大勢で楽しく遊べたかくれんぼの復活を願ってもできない相談のようですね。ただ、自然界では、全部の虫が「そっくり大作戦」を採用しているわけはありません。次回では、もっと別なやり方で身を守っている虫を紹介しましょう。

元金小校長 昆虫教室(町教育委員会主催)講師 鈴木健司さん